

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な関係作りの中で入居者様の人格を尊重し、一人ひとりの生活、自主性(自立)を重視している。	前管理者が開設時に【ヒューマンサービスの精神】と【ゆとりある暮らし】を柱とした理念を作成し、ユニットの共有スペースに掲示しています。理念の中にもある【家庭的な和やかな雰囲気】についても、事業所にとってどのように捉えるかを職員と一緒に検討する機会もありました。	職員と一緒に定期的に理念を確認する機会も設け、より理念の浸透を図られることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	救急講習会を地域の方と職員と一緒に行った。地区の防災訓練にも参加の予定。地域の小学生からプランターの花を頂いたり祭りに参加している。	地域の小学生からお花を頂いたり、町内会の盆踊りにもご利用者と一緒に参加したりなどの交流が行われています。今後は青年会の活動にも職員に参加してもらう予定もあり、地域との交流をより深めていく予定です。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では入居者様のご家族も交え、認知症について話し合っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や、入退居、職員研修、町内行事等の報告をしている。その他、ご家族からの質問にお答えしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、市の担当者、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族代表から出席してもらっています。会議では施設の活動内容や入退去の情報を報告し、参加者から頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	先日の監査で、事故報告が遅いとの指摘を受けた。また、市から研修のお知らせが来たときは積極的に参加している。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいているほか、指導も頂いており、市主催の口腔ケアや感染症の研修も参加し、協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は内側からはボタンを押さないと開かないようになっている。	身体拘束は行わない方針のもとに、言葉の遣い方についても抑制と感じられたときは指導するようにしています。	2階の玄関の施錠や身体拘束の理解を深めるための研修などを検討し、改善が図られることを期待します。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は無い。	虐待の恐れがあるケースは現在はありませんが、身体拘束同様に虐待についての職員研修が行われていません。	虐待の理解を深めるための研修などを検討し、職員の理解を深められることを期待します。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前日常生活自立支援事業を利用していた入居者様はおられた。職員はそのないようは理解していないと思われる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様のご家族には丁寧に説明させて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内では意見箱を設置している。外部へ情報が漏れることが無い様にも注意しています。	ご利用者の誕生会や運営推進会議にもご家族に参加していただき、意見をいただけるよう場としています。	ご家族会からの意見をより頂ける機会としてご家族会を検討し、実施されることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開き職員の意見交換の場としている。	毎日のお昼のミニミーティング、毎月の全体会議を行い、意見を吸い上げるようにしているほか、管理者も現場で業務を実際に行う中で、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、職員に自己評価をしてもらい、それに基づき給与等の評価をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内がファクス等で送られてきた場合には、全員に回覧し目を通してもらっている。また、こちらから、指名し研修に行ってもらっている。また、全体会議では毎月課題をきめ、施設内で研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は無い。今後は交換研修をしてもいいのかも。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当制をとり、入居者様の心配ごとに耳を傾けるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事は電話やメールで受け付けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が難しくなっている来たら、適切な施設の紹介、コーディネートをしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉遣いには特に気をつけるように指導している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族に対しても丁寧な対応を心がけている。	事業所広報に職員がコメントを添えて毎月送付しており情報を共有しているほか、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	居室にはなじみの物をお持ちいただいている。	柏崎の祭りであるえんま市や馴染みの美容室へ出かけたり、近くのスーパーへ職員と一緒に買い物にでかけたりと今までの関係継続支援に努めています。	職員の入退社についても事業所広報などを使い、ご家族への説明を行われることを期待します。
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	日中はなるべく食堂で皆さんといていただけるような雰囲気作りをしている。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退去された方(死亡は除く)の施設や家を訪問し様子を観ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	担当職員がご本人様の意向を大切にし、意向を把握して、個別支援の時間を設け、行っている。	ご利用者の意向に沿った個別支援計画実行表を作成し、毎日個別支援を実施し、その取り組みの振り返りも日々行っています。調査当日も学習療法をご利用者に個別に行っていました。	
24	(9-2)	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	これまでの環境をなるべくかえることなく自然な流れで、生活が出来るように支援している。以前ウサギを飼われていた方はそのままウサギも一緒に入居(居室は別、廊下で飼う)された。	入居の際にご家族やご本人に聞きながらこれまでの情報の把握に努力しています。	ご利用者の情報をまとめたフェイスシートについても定期的に更新されるよう検討されることを期待します。
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	ご本人様のエンパワメント、ストレンクスが発揮できるような場を設けている。出来ることはご自分で、職員は待つ姿勢で、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月ごとに昼のミーティングでモニタリングを行っている。職員が入居者様の一人ひとりのプランを把握するよう指導している。	3ヶ月に1回のペースでモニタリングが行われていますが、サービス担当者会議の記録が無く、ご家族の参加もありませんでした。	サービス担当者会議にはご家族にも参加していただき、意向を確認し、その内容も記録に残されることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヵ月ごとに昼のミーティングでモニタリングを行っている。職員が入居者様の一人ひとりのプランを把握するよう指導している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当制をとり、入居者様の担当職員が声を聴きニーズに対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物へいき食材を選んでいただく。施設内では出来ないこと。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調管理は看護職員を中心に、特変があった場合は速やかに受診につなげている。また、時には施設職員が同行し施設での様子を主治医に話しさせて頂いている。	ご家族と職員が状況に合わせて受診支援をしています。医療機関にはご利用者の経過をまとめたお手紙を渡したり、直接連絡するなどして情報提供を行なっています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬関係は看護師が管理し、内服時は介護員、看護師で確認をしながらしている。協力歯科医院に定期的に往診に来ていただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ面会へ行き、入居者様の状態を把握し、状態の改善に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来的にGHでの生活の困難が考えられた場合、入居者様の負担にならないように速やかに、他施設の紹介・コーディネートをする。	契約段階で管理者は、中間施設を前提としたホームであることを伝えていきます。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、ご利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っています。	事業所の終末期の支援方針について職員にも周知する機会を設けられることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に赤十字の指導員をお呼びし、救急法の講習会を開いている。	年に1回、日本赤十字の指導員にお願いし救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。救命講習には地域の方にも参加していただいています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。また、地域の方との訓練も行う。	避難訓練を年2回実施していますが、報告書が確認できませんでした。また、夜間の火災や地震、水害を想定した訓練はまだ行われておらず、非常用の食品の準備もされておりました。	ホームで考えられる災害を想定した訓練を実施するほか、非常用の食品についても早期に準備されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切に、常に敬いの気持ちで接するように指導している。入居者様の呼び方は必ず名字にするよう指導している。	ご利用者の呼び方や言葉の使い方については職員に指導しています。また、広報誌への写真の掲載は口頭での確認は行われていますが、書類での同意は得られておりません。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間を利用しその方の得意なことや自己表現が出来るよう能動的に作業していただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを大切に、職員は待つ姿勢で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのヘアスタイルや化粧が出来るような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回はご自分の好物が出てくるように献立を考えている。また、調理の手伝い等をプランに入れ支援している。	ご利用者の能力に応じて調理や味付け、後片付けなどに参加する場面もあります。また、個々のご利用者の要望に応じて外食支援を行なうなどの対応もっています。また、事業所の畑でもきゅうりやじゃがいもなどの野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態を表にし職員間で共有している。食事量、水分量のチェックも記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをプランに入れ、入居者様同士が一斉に洗面台に行かないように時間差で誘導し、口腔ケアをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、時間を観ながら排泄誘導し、失禁防止に努めている。	必要な方のみ排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な排泄誘導、支援をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日2回排便の確認をし、3日無い場合は何らかの処置を看護師が行う。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの時間帯に入浴していただけるように表を作り週に2回は確実に入浴していただいている。拒否が続く場合は清拭をしている。	ご利用者の好みの時間帯に入浴していただけるように支援しており、入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるように努めています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のタイミングで眠ることが出来るように焦らせずに待つ姿勢で睡眠の誘導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師任せにしているところがある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全職員が入居者様一人ひとりの細かいところまで把握しているかは疑問。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩や買い物にお誘いしている。行事等で祭りや花見に出かける時もある。	毎日、ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけています。また天気の良い日の散歩や季節に合わせたお花見や紅葉狩りなどの外出も実施しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まつり時はご自分のお小遣いで買物をしていただいたが、普段では無い。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要求があった場合は事務所の電話を使っていただいたり、ご本人の携帯電話の操作をお手伝いさせていただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画は季節に合ったものを作成し貼っている。また、食堂のテーブルには季節の花を飾っている。	事業所の1階にはお地蔵様が置かれており、共有スペースには畳の小上がりがあります。また、食堂のテーブルには職員が持ってきた季節の花が飾られており、飾られている写真やご利用者の作品も季節に合わせ変えています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方向土座席を近づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの転落の恐れのある方は布団対応をしている。また、なじみの物や家族の写真をお持ち頂いている。	居室には、テレビ、タンスなど慣れ親しんでものを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは倉庫へ片づけている。		